

会 議 録

- 1 開催した会議の名称 令和8年度佐賀県立九州陶磁文化館協議会
- 2 開催日時 令和8年8月10 日(月)13時30分から15時30分まで
- 3 開催場所 佐賀県立九州陶磁文化館 会議室
- 4 出席者 委 員： 今泉委員長、村上副委員長、青木委員、上野委員、江口委員、
酒井田委員、鍋島委員、三木委員、百田委員、鷺尾委員
古川委員、松尾委員
事務局： 鈴田館長、山田統括副館長、徳永シニア・アドバイザー・フェロー、
藤原副館長、村山企画総務課長、岩永係長、山本係長、芳野主査、
巖主事、副島主事

- 5 議題 (1) 九州陶磁文化館の運営について
 - ① 令和7年度事業実績について
 - ② 令和8年度事業計画について

(2) その他

6 会議録

会議の冒頭に鈴田館長から挨拶、委員・職員・オブザーバー、委員長の紹介をした後議事に入った。

(事務局より配布資料に基づいた説明)

(委員長)

ありがとうございました。ただいまの事務局の説明に対して、皆さんからご意見ご質問をお受けしたいと思います。挙手のうえ発言をお願いいたします。

(委員)

カフェの運営はどうですか？

(事務局)

現在、朝 9 時からオープンし、3～4 人で運営されています。入館者のうち外国の方など、ヴィーガン料理等に興味のある方が来館されています。KBC 放送の「ふるさと Wish」やサガテレビの「かちかちプレス」等で取り上げられるなど、広報にも力を入れており、福岡など隣県の方も放送をご覧になられたことで、来店される方もいらっしゃるようです。九州陶磁文化館に入居していただいたので、今後も、カフェの広報等協力していきます。

なお、ビーガン料理やスイーツもおいしく、カフェを目当てに、九州陶磁文化館にお見えになら

れる方もいらっしゃいます。

（委員）

カフェのメニューなどの情報は下にも掲示されていますか？

（事務局）

はい、メニューなどの情報はカフェ入口の階段下にも掲示されています。

有田町産の食材やビーガン向けのこだわりのメニューということで、単価的に高いという声もありますが、明日 11 日から、お盆期間中は、エントランスホールで、冷やしうどん等を提供されます。

（委員）

今年度から、展示室等の改修を予定しているとの説明がありましたが、今年度の予定を教えてください。

（事務局）

今年度は、九州陶磁文化館を起点に、有田のまちなか等への周遊が図られるよう、体験プログラムや宿泊施設等の情報提供を行う、コンシェルジュカウンターを設置します。なお、次年度から、第 3、第 4、第 5 展示室の改修やコンシェルジュカウンターの運営を予定しています。

国は、外国人観光客に向けて本物の日本文化を体験できる拠点整備に力を入れており、これまでとは、博物館の役割が変わってきています。歴史・文化を学ぶ機能に加え、文化体験や地域周辺へつなげる文化観光機能の強化へと変化していますので、九州陶磁文化館で陶磁器のことを学んでから有田のまちなか等への周遊を促し、観光へとつなげるためのものです。

（委員）

九州陶磁文化館にコンシェルジュカウンターを設置するとのことだが、具体的に何を案内するのですか。やきもの体験はどこで・・・とか、おいしいものはどこで・・・とかですか？

（事務局）

九州陶磁文化館で、有田焼の特色や窯元の背景などを学んでいただいた後に、有田のまちなか等へ周遊していただくため、見学・体験プログラム、まちなかの飲食店・宿泊施設情報などを案内してもらいます。

(委員)

この事業(文化庁:本物の日本文化を体験する観光拠点整備事業)は、新しく始った事業ですか？

(事務局)

令和7年度から始まった国の新規事業で、令和7年度に採択された8件の中の1つです。

この事業は、文化体験を提供する人材の確保・育成や、文化資源に係る施設設備の整備、デジタル技術の積極的な活用等を支援することを目的とし、今年度は、九州陶磁文化館の観光コンシェルジュ機能を充実するものです。

(委員)

コンシェルジュカウンターは、誰が設置するのですか。コンシェルジュカウンターは有田観光協会が運営されるのですか？

有田のまちなか等への周遊のための案内は、それなりに知識等も必要だと思いますが。

(事務局)

コンシェルジュカウンターの設置は九州陶磁文化館が行いますが、コンシェルジュカウンターの運営体制について検討中で、これから具体化していく段階です。

(委員)

第5展示室の茶室の利用について、令和7年度、令和8年度は実績がないとのことですが、令和9年度からでも、ぜひ茶室の利活用をお願いしたい。愛知県陶磁美術館では、毎年茶会が行われています。名護屋城博物館でも茶会があるので検討してほしい。

また、第5展示室での茶室の見せ方も大事だと思います。茶室の床の間の設えを見るだけでも楽しいものですので、第5展示室の改修については、茶室の見せ方も検討していただきたい。

(事務局)

茶室の利活用について、虫・カビ等保全の仕方のハードルが高くなってきています。これは、花を飾ったら虫が寄ってきて、紙や布などの文化財によくないため、せっかくある茶室が使えない現状です。今後、第5展示室のリニューアルで茶室をどうするのか、今から中身を詰めていく予定です。第5展示室での茶室の設えについては、問題はないですが、第5展示室の茶室で茶会をするにはハードルが高い状況ですが、観光体験が重要になってきていますので、第5展示室のリニューアルで茶室を、茶の文化・やきもの文化を伝えるため、どのような設えをするのか、検討してい

きたいと思います。

(委員)

文化財保護の観点もあるので、茶室は茶室、献茶は献茶として、個別の対応を考えてほしい。
ここは、博物館ではなく文化館の名称がつけられており、文化伝承も考慮しては？

(委員)

九州陶磁文化館の展示品は、紙や布などではなく、やきものなので、虫・カビ等保全にそこまで配慮する必要があるのですか？

(事務局)

展示は、主にやきものですが、九州新工芸展などの企画展では、染織等も展示されます。
なお、九州陶磁文化館内での飲食については、エントランスと展示室の間の階段を境に、エントランスでの飲食は可能とし、展示室やその周辺での飲食を禁止しています。

(委員)

毎年、夏に『こども煎茶教室』を開催し、今年で 11 年になりますが、急須がないお宅が増え、「お茶はペットボトルでしか飲んだことがない」という子どもたちが増えています。煎茶は有田焼などの磁器を使っている。子どもたちに、有田焼を使った抹茶体験の場が必要。是非、九州陶磁文化館内で煎茶教室を開催できるよう検討してもらいたい。

なお、毎年 11 月 23 日に佐賀市内で煎茶体験会を行っていますので、一度ご覧になられてください。

(委員)

先ほどの委員の意見は素敵だと思います。有田焼は伝統、そして産業なので是非、有田の九州陶磁文化館に来たら、本物を見て、本物にふれる体験ができるようにしてもらいたい。

それから、有田町の教育委員の意見としてですが、小中学生から、有田町歴史民俗資料館は「よかった」との声を聞くが、九州陶磁文化館に関しては、そのような声を聞かない。地元有田町の小中学生の九州陶磁文化館の利用が少なくなっているのではないかと思います。観光の面だけでなく、小中学生への社会教育にも踏み込んだ方がいいと思います。

海外からの来館が多いようですが、来館者数が一番多い韓国の方が、どういうルートで有田町に来られているか調査されていますか。陶山神社の下で、月 1 回マルシェを開催しており、そこで話を伺うと陶山神社からギャラリー有田そしてアリタセラに回られているようです。九州陶磁文化

館まで足を運ばれてないのが残念だなあと感じていましたので、九州陶磁文化館で方策を考えられたらどうでしょうか。県内の造船所で船を購入される富裕層の外国の方も、有田に行きたいという方も多いので。

また、お茶(tea)が海外で人気なので、お茶の産地である八女・嬉野等を巡るツアーの方も多いです。ツアーの拠点となっている場に、九州陶磁文化館のパンフレットを置くのも良いと思います。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

実は、公共交通機関を利用して、有田町に訪れた方を対象に、有田駅で「有田で一番行きたい場所」を調査したところ、一番は「陶山神社」でした。九州陶磁文化館で、古陶磁を展示していますが、町並みや自然風景などのロケーションの面で陶山神社が人気のようです。

有田町内での滞在時間が限られ、陶山神社・アリタセラ・九州陶磁文化館などが隣接しているわけではないので、有田の魅力的な場所の全てを見て回ることができないようです。

(委員)

有田に長時間滞在したい、九州陶磁文化館に行きたいなどの動機づけが大事だと思います。

(事務局)

以前から 韓国の方から「有田町内での滞在が短時間で、陶山神社からアリタセラの滞在で時間が足りなくなるので、九州陶磁文化館での見学を見送る」との連絡を受けたことがあります。

有田町内の滞在時間が長くなるよう、有田町内もしくは周辺で、宿泊滞在される方が増える仕組みが必要と考えています。なお、この事業(文化庁:本物の日本文化を体験する観光拠点整備事業)で、県観光課で宿泊施設への支援も行われます。

(委員)

先ほどの委員の意見にありましたが“小中学生への社会教育”のため、学校と連携した方が良いと考えます。まずは先生方に九州陶磁文化館を知ってもらうことも大事だと思います。

因みに、九州陶磁文化館への修学旅行等がありますか？

(事務局)

有田町観光協会を通じて、修学旅行を受け入れたことがあります。

なお、学校との連携についてですが、学校向けの出前授業の募集を HP に掲載しており、昨年

度も小学校に、学芸員が出向いています。

また、昨年度に引き続き、今年度も西有田中学校の先生が研修にいらっしゃいます。

高校生のインターンシップ受入や、中学生の職場体験受入を受け入れているところです。

(委員)

有田町で学童保育を行っており、毎年春に学童の子どもたちと九州陶磁文化館を訪れています。今年も夏のイベントの案内をいただきましたので、子どもたちに、どのイベントに参加したいかアンケートをしました。その結果、マグカップが9名、うちわが6名、写真立てが6名でした。楽しいイベントを開催してもらってありがたい。

(委員)

九州陶磁文化館は、有田焼などを展示する立派な施設で佐賀の誇りだと思います。

施設内に講堂がありますが、どのような活用がなされているのか教えてください。

(事務局)

講堂は主に、研究発表の場として活用されています。

具体的には、有田工業高校の卒業制作展のプレゼンテーション、やきものセミナーの会場として活用しています。また、団体客が展示室観覧中の荷物置場として提供することもあります。

(委員)

佐賀県内には、県立の博物館が6つもあり文化の意識が高い県だと思います。

個人的には、有田のイメージは、やきものと有田鶏があります。器とのコラボで、有田のご当地グルメとして親子丼をつくってはどうか。企画、グルメ、お土産等 SNS の向上効果が期待できる。

以前、有田焼でラーメンの丼を作ってもらったので、親子丼で町おこし、器と食のコラボも良いと思う。いかにして、盛り上げるかを考えています。

(委員)

ACE プログラム(本物の日本文化を体験する観光拠点整備事業)に関心があります。私は内山地区と九州陶磁文化館との、人の行き来を増やせないかと考えています。

九州陶磁文化館を拠点に人の交流ができればいいなと思います。

(事務局)

これから、九州陶磁文化館に来てもらった人に、有田のまちなかへ周遊してもらおう動機づけが

必要。あと、移動手段も考えないといけない。

(委員)

中国・韓国の方は団体、欧米の方は個人での旅行が多い。見るところもちがうので、その点を踏まえ、有田のまちなかへの周遊について、やり方を練らないといけないと思います。

(委員)

10 月からの特別企画展(柿右衛門窯跡発掘調査 50 周年記念)では、3 年前に佐賀大学の学生たちが制作した映像を流させてもらえることになり、ありがとうございます。

カフェがオープンしていますが、ビーガン・欧米の方の利用は増えてきているが、地元の方々が利用するようになるかが大事だと思います。

来館される方は、日本人では、陶磁器の文化に興味がある方が来られているので、年齢層が高い、もっと年齢層が低い方でも来館しやすいようにしていったらどうでしょうか。ターゲットをしっかりと見極めていったら、相乗効果があると思います。

(委員)

来館者の年齢層が若ければいいというものではないと思いますが、以前はアリタセラもお客さんの年齢層が高かったが、アリタセラでアリタ・マシュマロ・クリスマスイベントが開催されるようになって、来訪者の年齢層が下がってきた。

アリタハウスは宿泊施設・レストランも兼ね備えていますので、来訪者の年齢層が下がってきたことを受けて、若い層が利用できる価格帯でのランチ・ディナーをやっていこうと考えています。

(委員)

九州陶磁文化館での「研究紀要」の刊行が軌道にのってきたので、今後もがんばってほしい。

(事務局)

「研究紀要」とは学芸員が書く論文で、九州陶磁文化館では一旦、刊行を中断していた。刊行を再開したが、日々の業務に追われながら仕事をしていて、研究する時間がないのが現状です。また、普及活動だけでは残せるものがない。残せるものがない危機感を持っているので、やきものセミナーの講師を各学芸員が年2回担当し、試行錯誤しながら資質の向上に努めています。

(委員)

「古陶磁」を研究する人はいるが、「現代」を研究する学芸員を育成してほしい、お願いします。

（事務局）

九州陶磁文化館では、陶磁器に関して見識を有する学芸員が在籍しており、若手も育ててきています。「現代」の研究は美のセンスも必要になりますね。

（事務局）

10月からの特別企画展（柿右衛門窯跡発掘調査 50 周年記念）では、佐賀大学の協力を得て、工房の息吹に感動した映像を流させていただきます。長年の課題でしたマニアックな展覧会が画期的な展覧会になると思います。

10月からの特別企画展をご観覧いただけるよう、よろしくお願いします。